

# 白梅学園短期大学図書館の学生利用に関する調査報告

久保木 寿 子

1996年12月初旬、白梅学園短期大学図書館における学生利用の実態を把握することを目的としたアンケート調査を実施した。以下はその結果の報告である。

## I. 調査の背景：白梅学園短期大学図書館の活動経過と現状

白梅学園短期大学図書館は相当の準備期間を経た後、1994年から本格的に電算化の時代に入った。本アンケート調査の分析の背景をなすこの間の図書館の業務に関わる活動経過を、年譜として追うと概略以下になる。なお、これ以前の時期の当図書館の活動経過および問題点については、『白梅学園短期大学紀要』第31号（1995年）所収「白梅学園短期大学図書館7年間の歩み（1987－1993年度）」に、前館長西村汎子教授による詳細な報告がある。

また、調査の背景となる白梅学園短期大学図書館の利用概況を、蔵書数・貸出状況・レファレンスの数値で示した表を、(2)の「図書館利用の現状」の項に掲げた。併せて参照されたい。

### (1) 1994年4月以降の図書館の主な動き

- 1994. 4 本学図書館で業務の電算化正式スタート  
(PCによる貸出返却処理、正式開始)
- 9 視聴覚室正式開室
- 9 PCによる白梅短大図書館蔵本(図書)検索が一部可能になる
- 9 図書カード目録の編成中止  
(新データはカードレスに、旧カード目録は凍結維持)
- 1995. 2 NC雑誌目次DBへ、白梅紀要NO30より送付開始、以降継続
- 2-3 保育科研究室より児童書・絵本・紙芝居類を図書館へ移管
- 3 BDS設置
- 4 CD-ROM版雑誌記事索引を利用者公開へ
- 6 WINET(国立婦人教育会館所蔵資料DB)と接続
- 7 卒業生への貸出開始
- 1996. 1 PCによる所蔵雑誌、検索可能となる
- 6 蔵書点検ソフト購入

- 1996. 8 図書館内にインターネット環境を作る  
(PC 2 台: 利用者用 1・業務用 1)
- 9 心理学科資料室廃止
- 10 白梅幼稚園父母への貸出開始
- 12 学生への図書館利用アンケート調査に協力
- 1997. 4 保育科図書・雑誌の図書館への管理移行 (一元化への一歩)
- 6 インターネット上での他大学図書館等蔵書検索可能となる
- 9 インターネット上に短大図書館ホームページ公開
- 9 インターネット上で白梅短大図書館蔵書検索可能になる
- 9 利用者用PC, 4 台から 6 台に増やす
- 9 著者名カード目録の撤収

1997年12月現在の館内PC台数は、利用者用 6 台 (白梅蔵書検索用 4 台, CD-ROM 検索用 1 台, インターネット用 1 台), 業務用 5 台 (ネットワーク接続 3 台, その他 2 台) となっている。

また、この間、学内に分置されている図書の、図書館による一括管理が計られ、それに伴って学生の学内での図書資料利用の場にも変化が生じてきている。

各科によって学生の利用条件に違いがあり、現在の状況は以下の通りである。

保 育 科 研究室蔵書, 「保育科資料室」は消滅していないが、機能していない。

心理学科 (「心理学科資料室」は'96年 9 月に廃止された)

教 養 科 研究室蔵書, 旧教養科資料室蔵書

専 攻 科 (保育) 保育科に同じ

専 攻 科 (福祉) 専攻科資料室蔵書

## (2) 図書館利用の現状

本学図書館の利用の概況を、1996年度「図書館業務報告」より抜粋して示しておく。

### ① 年度別図書増加冊数および蔵書冊数

〈表 1〉

年度	和 書	洋 書	受入計	除籍数	蔵書現在数 (( )内は洋書冊数)
'96	2,662冊	62冊	2,724冊	27冊	82,933(2,081)冊
'95	5,520	58	5,578	86	80,236(2,019)
'94	4,065	74	4,139	560	74,744(1,961)

## ② 館外貸出状況の推移

〈表2〉

年度	学生貸出計	学生数	一人当貸出冊数	教職員・他計	合計	枚数	ビデオ視聴
'96	14,118冊	941人	15.0冊	1,363冊	15,481冊	28,592枚	854+32人
'95	12,543	972	12.90	1,265	13,808	28,632	886+58
'94	10,905	1,018	10.71	1,047	11,952	31,520	444人(472冊)

注1 学生数は各年度5月1日現在の数。

注2 ビデオ視聴の+数値は学科所蔵分の視聴数。

注3 '94年のビデオ視聴の数値は、同年9月から'95年3月までのもの。

## ③ 文献複写等相互協力件数およびその推移

〈表3〉

項目	年度	'96	'95	'94
複写依頼（外へ）		34件	98件	45件
文献依頼（外から）		5	10	1
現物借用(国会図書館など)		5	2	1
紹介状発行（外へ）		23	39	42
紹介状受付（外から）		1	2	1

このように短大図書館の業務及び利用活動は、施設・設備に根本的な問題を抱えながらも、着実に前進を見せ、電算化体制は今日ほぼ整備されたといつてよい。これに伴い館内業務は勿論、学生の利用方法も大きく変わってきているのが現状である。

## Ⅱ. 調査の目的・対象・実施方法・回答率について

## 【調査の目的】

これまで、本学では、学生を対象とした図書館利用調査が一度も為されてこなかった。そこから「さらなる利用改善のために、その実態の調査が急務である」という図書館側の認識があり、一方、「有効な学びの場である図書館に、学生たちはどのように関わっているのか、現状を把握したい」という、教育に携わる側（稿者）の要求があつて、今回の調査が実現することになった。

Iで見てきたような電算化された新体制の中で、学生の図書館利用の実態はどのようになっているのであろうか。はたして電算化に対応する利用行動ができているのであろうか。設備が整い利便性が増しても、活用されないことには意味がない。学生たちが抱えている問題はないのだろうか。調査の目的は、一に学生に直接尋ねることで本学図書館の利用の現状を学生の側から捉えることにある。従つて、施設・設備等についての質問はしていない。

## 【調査対象・実施方法・回答率】

調査は白梅学園短期大学の保育科・心理学科・教養科の各1・2年生および専攻科に在籍する学生を対象に、その約半数の任意抽出クラス（表4参照）に授業時間の一半を割く形で協力を願い、アンケート用紙に記入する形で実施した。所要時間は約15分から20分であつた。

この方法は、このような調査自体に対する学生の自発的な関心・興味をみることはできな

いものの、各科各学年に渡る全体的な傾向を把握するためには有効で、それぞれ相当の回答率を得ることができた。ただし専攻科については、別途に扱うこととし、今回の結果報告には含めなかった。

〈表4〉調査対象と調査率

	1 年			2 年			1・2 年計		
	調査	在籍	調査率	調査	在籍	調査率	調査	在籍	調査率
保 育 科	61	191	31.9%	88	193	45.6%	149	384	38.8%
心理学科	51	125	40.8%	49	121	40.5%	100	246	40.7%
教 養 科	48	129	37.2%	64	107	59.8%	112	236	47.5%
計	160	445	36.0%	201	421	47.7%	361	866	41.7%
専攻科計	14	64	21.9%						

調査対象者数 375      在籍者 930      調査率 40.3%

### Ⅲ. アンケート項目

実施した調査用紙をそのまま掲げる。

白梅学園短期大学図書館の学生利用に関する調査

1996・12・10

これは、本学図書館について、学生の利用実態を把握するためのアンケート調査です。各項目ごとに、該当する番号・符号を○で囲んで答えてください。

1. あなたの所属は
  - 1) 保育科      ア) 1 年      イ) 2 年
  - 2) 心理学科    ア) 1 年      イ) 2 年
  - 3) 教養科      ア) 1 年      イ) 2 年
  - 4) 専攻科      ア) 保育専攻      イ) 福祉専攻
  - 5) 科目履修生
2. 授業開講中、あなたは白梅短大図書館への位行きますか。
  - 1) 毎日      2) 週3－4回      3) 週1－2回程度      4) 月2－3回程度
  - 5) ほとんど行かない
3. 図書館へ行く目的は何ですか。
  - － 1. 本を（雑誌を）読むため：
    - ア) よく行く      イ) 時々行く      ウ) ほとんど行かない
  - － 2. 本を借りる・返すため：
    - ア) よく行く      イ) 時々行く      ウ) ほとんど行かない
  - － 3. 勉強・レポート作成のため：
    - ア) よく行く      イ) 時々行く      ウ) ほとんど行かない
  - － 4. ビデオ等を見るため：
    - ア) よく行く      イ) 時々行く      ウ) ほとんど行かない
  - － 5. コピーを取るため：

- ア)よく行く イ)時々行く ウ)ほとんど行かない
- － 6. 時間待ち, その他(待ち合わせなど) :
- ア)よく行く イ)時々行く ウ)ほとんど行かない
4. 借り出す対象は何ですか。
- － 1. 単行本を: ア)よく借りる イ)時々借りる ウ)ほとんど借りない
- － 2. 雑誌・紀要などを: ア)よく借りる イ)時々借りる ウ)ほとんど借りない
- － 3. 絵本・紙芝居を: ア)よく借りる イ)時々借りる ウ)ほとんど借りない
- － 4. ほとんど借りない
5. 借り出しの理由について, 主なもの3つに○をつけてください。
- 1) レポート作成の資料として
- 2) 実習などの参考資料として
- 3) 試験のため
- 4) 一般教養として(楽しむために)
- 5) その他
6. 借り出す冊数について。(月あたり, 単行本・雑誌合計で)
- 1) 10冊以上 2) 6－10冊 3) 4－5冊
- 4) 2－3冊 5) 1冊位 6) 借りない
7. 探す方法(単行本など)について
- － 1. カードで: ア)よく探す イ)時々探す ウ)ほとんど探さない
- － 2. パソコンで: ア)よく探す イ)時々探す ウ)ほとんど探さない
- － 3. 直接書架へ: ア)よく行く イ)時々行く ウ)ほとんど行かない
- － 4. 職員に: ア)よく聞く イ)時々聞く ウ)ほとんど聞かない
- － 5. 友達に: ア)よく聞く イ)時々行く ウ)ほとんど聞かない
8. 探す便利さについて。
- 1) カードの方が探せる 2) パソコンの方が探せる
- 3) どちらも探せる 4) 自分では探せない
9. 探している本が見つからない時どうしますか? 順位の高いもの3つに○をつけてください。
- 1) 再度カードかパソコンで見る
- 2) 職員に聞く
- 3) 友達に聞く
- 4) 地元の図書館へ行く
- 5) 諦める
10. 視聴覚室の利用について。
- 1) よく使う 2) 時々使う 3) ほとんど使わない
- 4) 視聴覚室があるのを知らない
11. 視聴覚室をほとんど使わない人に。その理由はなんですか?
- 1) 時間がない 2) 見たいビデオがない 3) 興味がない
- 4) 機械の操作が出来ない
12. 視聴覚室利用の時間帯について。
- 1) 昼休み 2) 空き時間 3) 休講時 4) 講義終了後

13. 図書館では、本の探し方や参考図書の利用のしかたの援助を職員がすることを、「リファレンス」と呼んでいます。この言葉を知っていますか。
- 1) 知っている    2) 知らない
14. リファレンスで、職員に聞いたことがありますか。
- 1) よくある    2) ほとんどない    3) 聞くのが面倒
15. リファレンスで職員に聞くのはどのようなことですか。主なもの5つに丸をしてください。
- 1) 本や雑誌の配架場所を聞く  
2) 特定の本や雑誌の有無を聞く  
3) 特定の分野の本や雑誌の有無を聞く  
4) 参考図書などの使い方を聞く  
5) カードの引き方を聞く  
6) パソコンの操作方法を聞く  
7) 利用冊数や開館時間を聞く  
8) 電動書架の操作方法などを聞く  
9) 自分がなにを何冊借りているか調べてもらう  
10) その他
16. 図書館間の「相互利用制度」について、知っていますか。
- 1) 知っている    2) 知らない
17. 紹介状により国会図書館や他大学へ行ったことがありますか。
- 1) ある    2) ない
18. 白梅短大図書館にない図書現物を、白梅短大図書館経由で他機関から借りたことがありますか。
- 1) ある    2) ない
19. 白梅短大図書館で所蔵していない雑誌・紀要の論文等のコピーを依頼したことがありますか。
- 1) ある    2) ない
20. 「図書購入希望制度（リクエスト）」を、知っていますか。
- 1) 知っている    2) 知らない
21. リクエストをしたことがありますか
- 1) ある    2) ない
22. 白梅短大に入って図書・資料が必要になった時、まず探しに行くのはどこですか。  
頻度の多いもの3つに○をつけてください
- 1) 白梅短大図書館    2) 学科資料室    3) ゼミ室  
4) 地元の図書館    5) 高校の図書室    6) 本屋に買いに行く  
7) その他（友達に借りる、など）
23. まず探しに行くのが白梅短大図書館以外の場合、それはどのような理由からですか？頻度の多いもの3つに○をつけてください。
- 1) 学科の資料室にあるから  
2) ゼミ室でよくみていて、あるのを知っているから  
3) 地元の図書館へはよく行っていて、馴れているから  
4) 高校図書室の先生に教えてもらえるから

- 5) 白梅短大図書館にはあるとは思えないから
- 6) 白梅図書館は利用しにくいから
- 7) 自分で買って持っていたいから
- 8) その他

24. 白梅短大図書館以外の図書館利用経験について

- 1. 小学校図書室を： ア)よく使った イ)時々使った ウ)ほとんど使わなかった
- 2. 中学校図書室を： ア)よく使った イ)時々使った ウ)ほとんど使わなかった
- 3. 高校図書室を： ア)よく使った イ)時々使った ウ)ほとんど使わなかった
- 4. 公共図書館等を： ア)よく使った イ)時々使った ウ)ほとんど使わなかった

25. 図書館利用の方法を、学校で教わったことがありますか。

- 1) 詳しく教わった 2) 簡単に教わった 3) 教わったことがない

26. 25で 1)と答えた人。どこで教わりましたか。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1) 小学校 2) 中学校 3) 高校 4) 短大

27. 26で 4)短大 と答えた人。だれから教わりましたか。該当するものすべてに○をつけてください。

- 1) 入学時のオリエンテーションで
- 2) 図書館で、図書館職員から
- 3) ゼミの先生から
- 4) 授業科目担当の先生から
- 5) 友人から

28. 短大の授業で、本学図書館の本が紹介されたり、そこで調べるように指示を受けたことがありますか。

- 1) 頻繁にある 2) 時々ある 3) まれにある 4) 全くない

29. 「指定図書」について。有効に活用していますか。

- 1) 活用している 2) 活用していない 3) わからない

30. 司書課程を履修していますか。

- 1) いる 2) いない

\* 白梅短大図書館への要望があれば、簡潔に書いてください。

以上、ご協力ありがとうございました。

## IV. 集計結果と分析

集計結果は図1から図16および表5から表12に示す。本来ならば、基になる個別の人数の基礎データ・百分比を掲げるべきであるが、いたずらに煩瑣になることを避ける意味とスペースの関係から、各項目ごとに図表に纏める形で結果を提示した。以下その解析のかたちで論を進める。学年別、学科別の結果など、図表に示していないことにも言及するが、それは基

礎データに拠るものである。なお、図表では、心理学科を「心理科」と略記している。

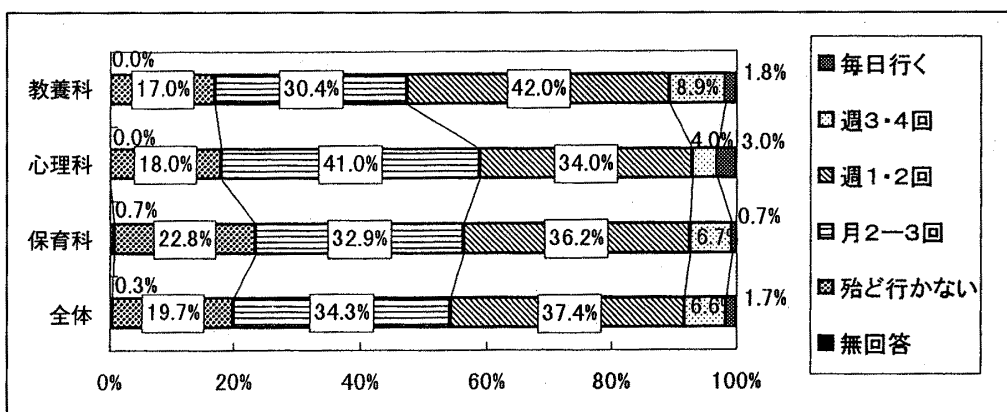
### 【所属学科と学年】

1：前項Ⅱ（表4）参照。

### 【利用頻度と利用目的】 ←→設問2、3

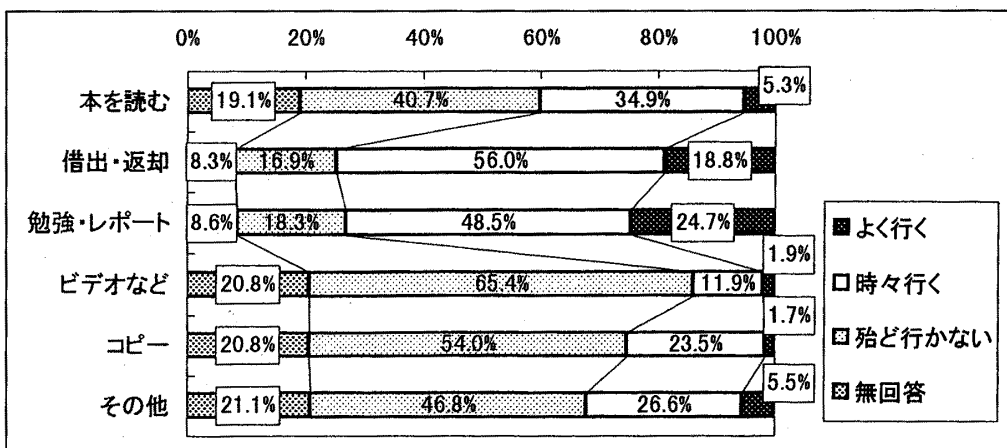
2：白梅学園短期大学生の50%弱が、週に1～2回程度以上利用しているものの、「ほとんど行かない」学生が20%近くにのぼる。基礎データによれば、1・2年生の利用状況には有意の差がない。週1・2回以上の利用者で見れば、教養科の学生の利用が他科より10%ほど多い結果となっている。

〈図1〉利用頻度



3：利用目的では、全体の74.8%が本の「借出・返却」のため、「よく」あるいは「時々」行くとなっている。同じくこの二項目に着目すると、勉強・レポートのため（73.2%）がこれに続き、読書のため（40.2%）とするものより多い。

〈図2〉利用目的と頻度

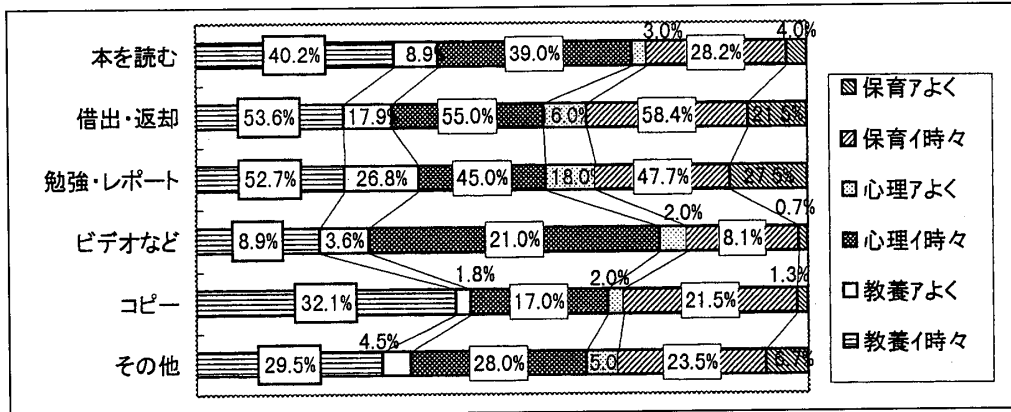


これを各科別に二項目の合算比率で見ると、図3に見るように、図書館本来の＜本を読む＞機能については、教養科（49.1%）と保育科（32.2%）との間に、約7%の差がある。また教養科の学生の79.5%はレポートのために図書館を利用し、保育75.2%がこれに続く。＜学習の場＞としての機能重視型である。心理学科は63.0%と比較的低く、一方ビデオの利用が多いなど、他の2科とはやや違った傾向を見せる。但しビデオの利用は、全361人中、「よく



見に行く」が7人,「時々」の43人と合わせても,14%弱に過ぎず,有効に使われているとは言い難い。

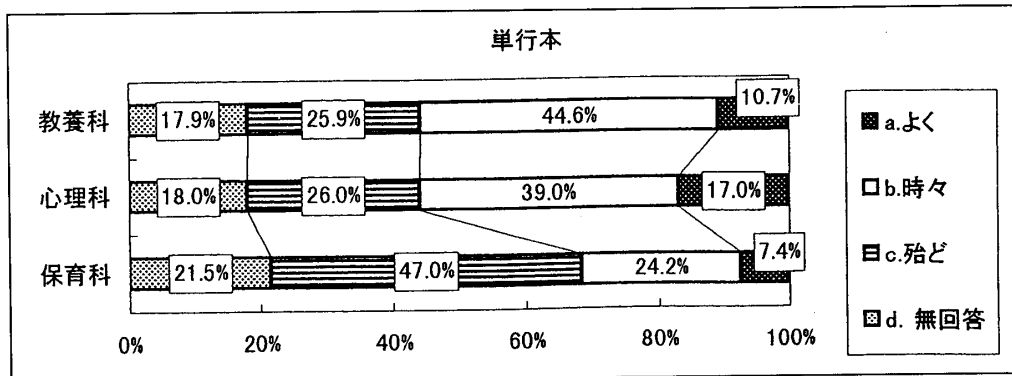
〈図3〉各科別利用目的



【借り出し】 ←→ 設問 4. 5. 6

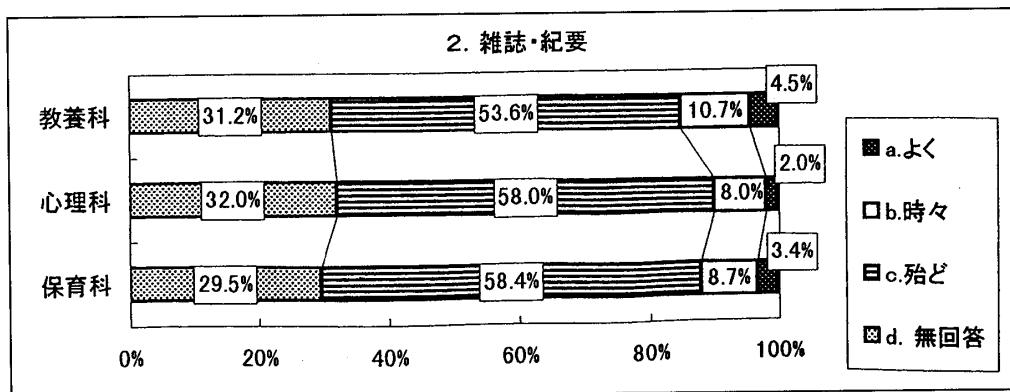
4-1: 単行本は心理学科・教養科がよく読むのに対し, 保育科が少ない。上位二項の数値では、教養科55.3%, 心理学科56.0%に対し保育科31.6%と、約25%もの差がある。学科の性格や, 時間的な余裕などの要因があるのであろうか。

〈図4-1〉借り出す対象



4-2: 雑誌・紀要の利用は, 各科ともに少なく,「よく」と「時々」をあわせても教養科15.2%, 心理学科10.0%, 保育科12.1%にとどまる。

〈図4-2〉



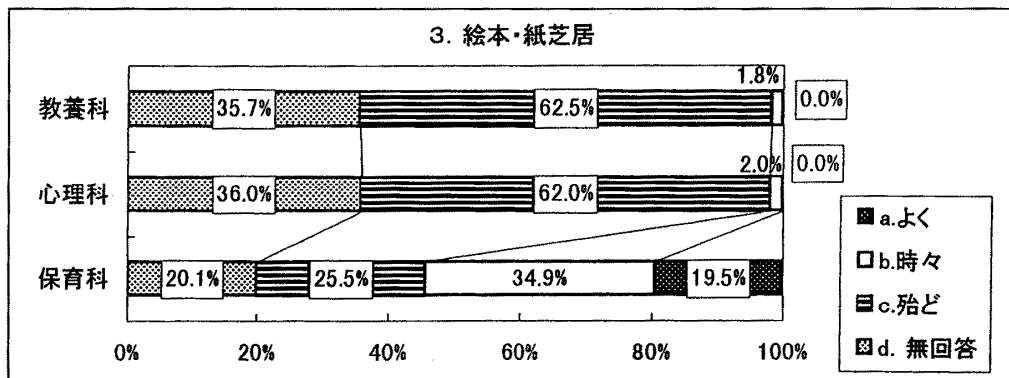
4-3: 絵本・紙芝居は保育科のみの活用というのに近く、「よく」19.5%、「時々」34.9%である。一方、教養科・心理学科は2%弱の利用率である。保育科の50%以上の学生が関わっていることから、コーナー設置の意義はあると言えそうである。

5: 借り出しの目的も、全体に「レポート作成のため」が94.2%と圧倒的に多く「試験」が67.8%とこれに次ぐ。学習の場としての意味合いが大きい。

6: 借り出し冊数は、全体で見ると、月2~3冊が多く、グラフ全体が右に高いことからして、それほど活発ではない。月6~10冊以上が10.3%で、1年生の6.9%に対し、2年生は13%となっている。2年生は卒業研究の影響があるであろうか。アンケート時期の問題も考慮に入れなければなるまい。

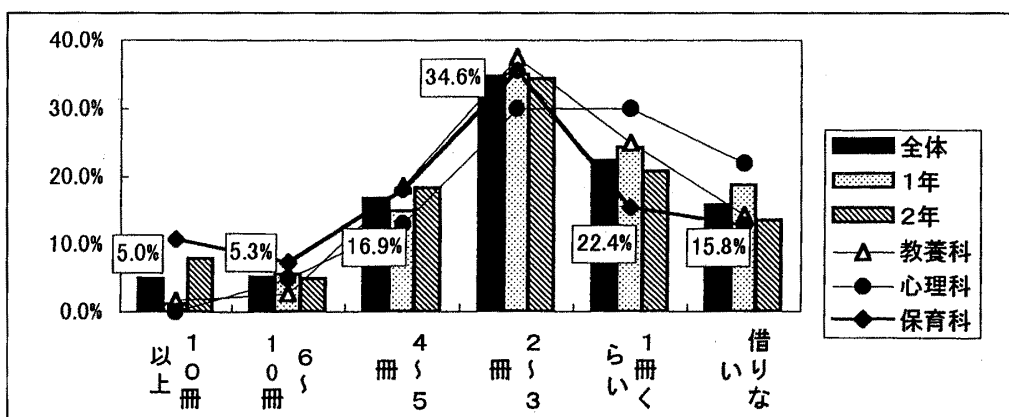
また、全く借りない者が15.8%。うち1年生が18.8%とかなり比率が高く、2年生が13.4%とやや少なくなる。

〈図4-3〉



各科別では、全般に心理学科の利用がやや低い。特に心理学科1年の利用が低く、「1冊くらい」31.4%、「借りない」31.4%で62.8%を占める（保育22.9、教養48.0%）。何らかの要因があるのであろうか。

〈図5〉 借り出し冊数



#### 【検索方法】 ← 設問7. 8. 9

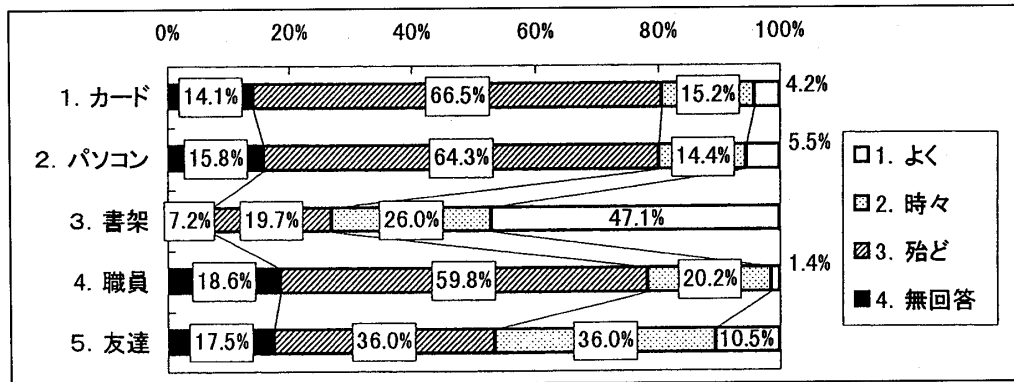
検索の方法については〈図6-1〉に顕著のように、圧倒的多数が「直接書架によく行く」と答えている。これは小規模な図書館で開架式という形態から生じるメリットでもあるが、反面、「カード」や「パソコン」で「殆ど」探さない者がそれぞれ66.5%、64.3%もあり、設問8-4によれば、自分で検索できない学生が26%にも上る（図7参照）。通常であれば

2年生が検索に習熟し利用が増すものと推測されるのだが、一年生と有意の差がないのも、書架に「習熟」するためであろう。

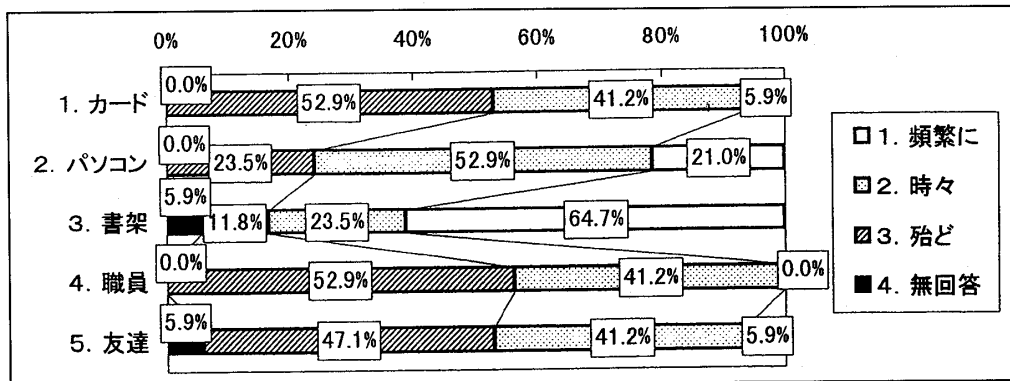
9：探せなかった場合の対応（〈図6-2〉参照）は、職員に尋ねるものが全体で約63.4%。1年生では70%近い。館に慣れるまでの初歩的なことでの度合いが高いのであろうか。また「地元の図書館に行く」ことで解決する者が64.5以上に上り、地域図書館の利用が目立つ。概して親近感を持っているようである。

8・9について試みに、教養科2年の司書課程履修者（14名）の結果と比べたのが図7・図8である。履修者はパソコンでの検索度が高く、「どちらでも」と合わせると85.7%になるが、これは全体平均が46.0%であることを考えれば、やはりこの間の学習の結果であろう。探せない学生は0である。また再検索についても、再度パソコンで検索をしたり、友人よりも「職員に聞く」が高い。逆に相対的に諦め率が低い。

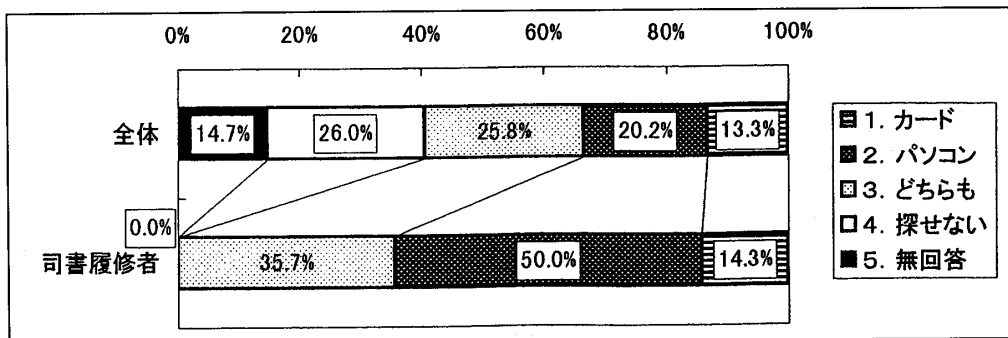
〈図6-1〉 検索方法



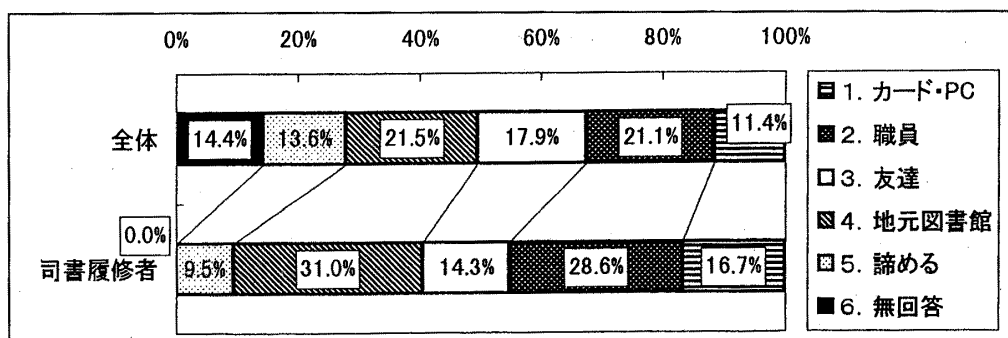
〈図6-2〉 再検索の方法



〈図7〉 検索利便性



〈図8〉再検索



これは検索方法を含む知識の修得が、適切な行動に結びついているのではなかろうか。言いかえれば、適切な学習により図書館への関心はさらに高められる実例となるであろう。

【視聴覚室関係】 ←→ 設問10. 11. 12

10～12は視聴覚室の利用に関する質問であった。結果は、殆ど使わない者が77%、室の存在を知らないものが4.2%で、実に80%以上の学生が無関係であった。「時間がない」というのが主たる理由になっているが、利用している学生は空き時間を活用しているので、関心度の問題でもあろう。「ほとんど」は、1年生で70.0%、2年生82.6%で、2年生の方に余裕がないということであろうか。なお、「意見」欄に、所蔵ビデオのレンタル希望が複数あった。学校では落ち着かないという思いがあるか。

〈表5〉視聴覚利用

	合計人数	1 年	2 年
1. よく	7	2.5%	1.5%
2. 時々	57	20.0%	12.4%
3. ほとんど	278	70.0%	82.6%
4. 知らない	15	6.3%	2.5%
5. 無回答	4	1.3%	1.0%

〈表6〉使わない理由 (人)

時間がない	169
見たいのがない	34
興味がない	67
操作できない	7
無回答	84

〈表7〉利用時間帯 (人)

昼休み	0
空き時間	116
休講時	25
講義終了後	31
無回答	189

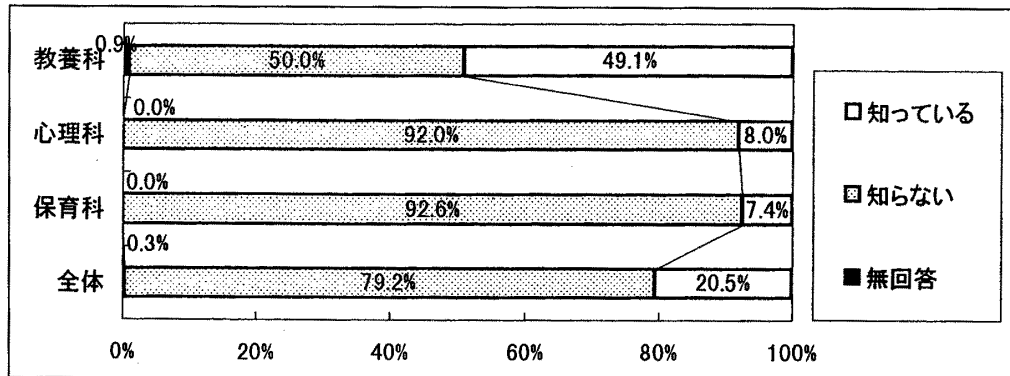
【リファレンス】 ←→ 設問13. 14. 15

13～15は、リファレンス関連の設問であった。用語については、保育・心理学科の約92%が、この言葉を知らないのに対し、教養科のほぼ半数が知っている。これも司書科目を開設していることの結果であろう。

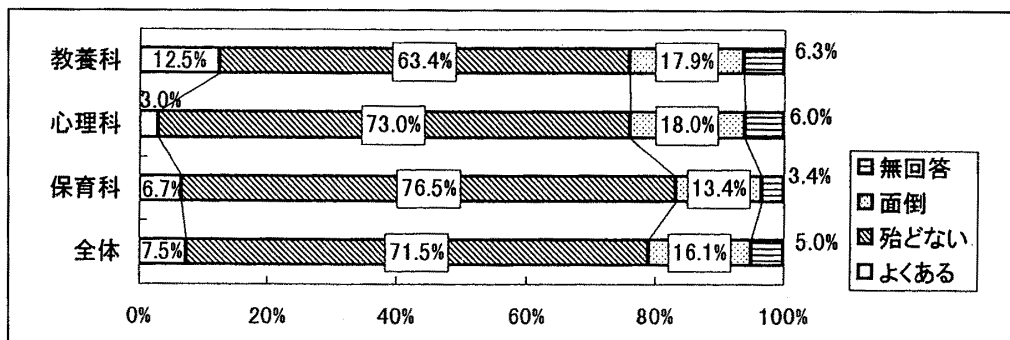
職員への質問についても、「よくある」が、保育科6.7%、心理学科3.0%に対し、教養科12.5%と差が出ていることから、予備知識が行動を促している側面があると考えられる。

リファレンスの内容については、各学年・科ともにほぼ同様の傾向にある。

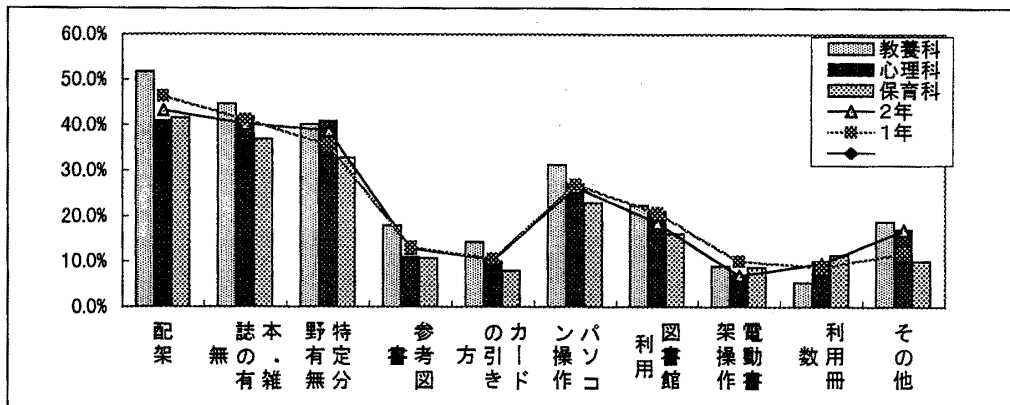
〈図9-1〉リファレンス（用語）



〈図9-2〉リファレンス（実行）



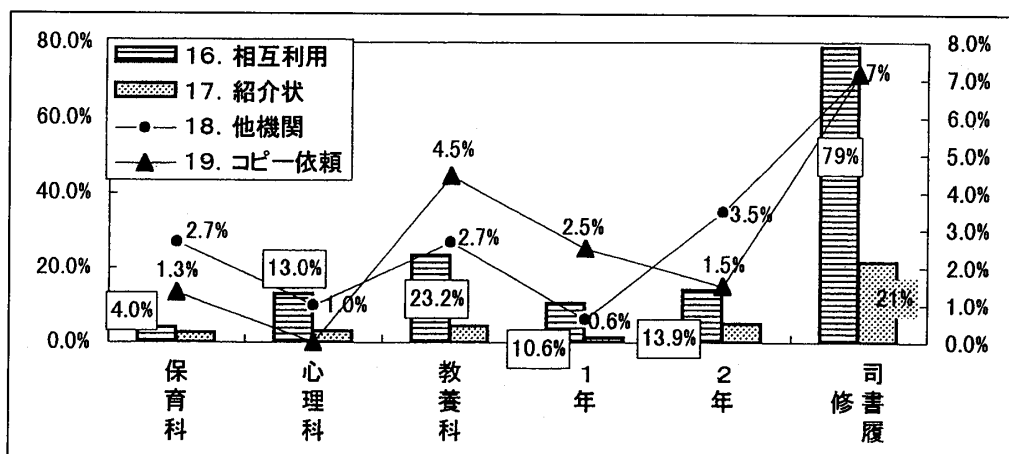
〈図9-3〉リファレンス（内容）



# 【相互利用】 ←→ 設問16. 17. 18. 19.

16～19は、図書館の相互利用についての設問。制度の認知度は、平均12.5%。1年よりも2年の認知度が高く、また〈図10〉にみるように、各科の間にも差がある。基礎データによれば、特に2年生の各科間のばらつきが目立ち、16の相互利用制度について言えば、保育科2.3%、心理学科12.2%、教養科31.3%となっている。これも司書科目開設と関連があらうか。試みに司書科目履習生と比較して図示した。しかし、実際の利用（17・18・19）では各科間に有意の差はない。それほど必要に迫られる機会が多くはないのが現実なのであろう。

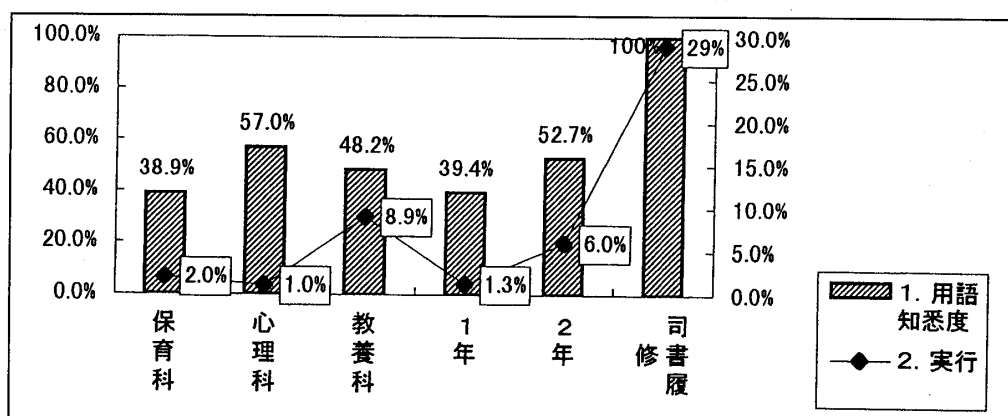
〈図10〉 他機関との連携



## 【リクエスト】 ←→ 設問20. 21

リクエスト制度の認知度は、1年が39.4%、2年が52.7%と比較的高いが、殆ど活用されていない。これも司書履修者は、制度の存在を全員が知っており、リクエストの実行度も高い。

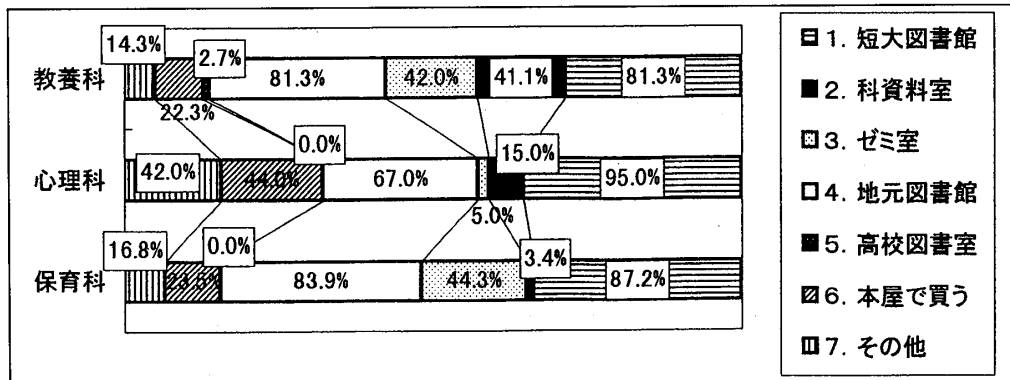
〈図11〉 リクエスト制度の認知と実行



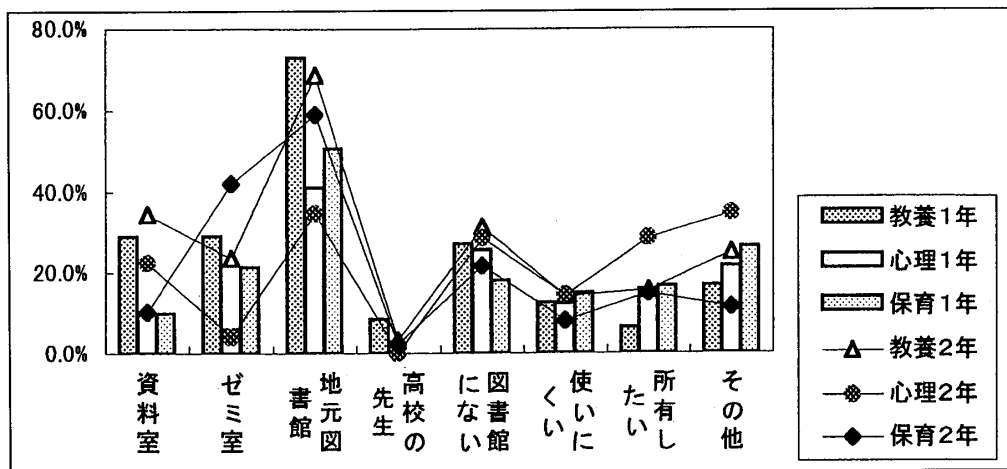
## 【図書・資料の活用全般】 ←→ 設問22. 23

短大図書館に限らず、広く図書・資料の利用行動を見る設問。本を探すときに、先ず行く所としては、圧倒的に短大図書館の利用が多いが（全体平均87.5%）、これに拮抗する勢いで地元の図書館が利用されている（78.4%）。これは「馴れているから」（55.4%）という理由によるもので、地域の図書館への親近感の強さが伺われる。短大図書館にも、「馴れているから」と言った感覚を持っていはいはずだが、どうであろうか。

〈図12〉 図書利用の場



〈図13〉 短大図書館以外の利用



学内の各科資料室の利用は平均18.3%で2割に満たないが、保育3.4%、心理学15.0%、教養41.1%と、科によるばらつきが大きい。ゼミ室の図書の利用は平均32.7%で資料室よりも利用度が高いが、内訳は保育科44.3%、心理学科5.0%、教養科42.0%である。先述のとおり、資料室やゼミの態勢が各科により異なることからこのような結果になったものであろう。資料室・ゼミ室ともに2年生の利用が、1年生の倍近い数値になっている。身近にある資料としては利用度は低い。

図書館に行かない理由として、「白梅短大図書館にはあると思えないから」が平均24.9%に上る。2年生の方が概して不満度が高い。これも「意見」の中に個別具体的に本の名前を上げたものがあつたが、リクエストを待つ以外にも、学生のニーズを積極的に知り、それを生かす工夫が必要であろう。

#### 【図書館利用経験】 ←→ 設問24

24は小中高の各学校図書室および公共図書館の利用経験を問うもの。「よく使った」が「ほとんど使わなかった」よりも高い比率で現れるのは小学校図書館(39.9%)と公共図書館(46.8%)である。これに対し中学校での利用率が極端に低く、「よく使った」12.7%に対し、40.4%が「ほとんど使わなかった」と答えている。読書離れの時期が明確に出ているといえよう。

〈表8〉他の図書館の利用経験

	1. 小学校	2. 中学校	3. 高校	4. 公共
保育科 よく使った	38.3%	10.1%	23.5%	47.70%
保育科 時々使った	36.2%	40.3%	37.6%	40.30%
心理科 よく使った	48.0%	18.0%	27.0%	38.00%
心理科 時々使った	21.0%	23.0%	26.0%	38.00%
教養科 よく使った	34.8%	11.6%	27.7%	53.60%
教養科 時々使った	23.2%	31.3%	32.1%	33.90%

【利用方法の修得】 ←→ 設問25. 26. 27 (複数回答でかつ必ずしも指示どおりに答えていないので、数値が正確に出ない)

8割強が簡単にであれ、利用方法を学校で教わったとしている(表9)。が、具体的に何時なのかは明確ではないらしく、無回答が8割を越す(表10)。全般に修得したという認識は低い。前項の低い利用率と言い、中学時代が、最も図書館から離れる時期であるという印象は否めない。

27は、26で短大と答えた32名への質問であるが、72名が回答している(〈図14〉参照)。短大での修得は、入学時のオリエンテーションがメインで、図書館職員・教員の修得への関与は少ない。先の検索方法の調査結果に、カード・パソコンともに使えない比率が無視し得ないほどの数値で示されたことと考え合わせれば、利用方法の習得に向けて、今以上の何らかの対策が必要であろう。

〈表9〉利用方法の修得

	全 体
a. 詳しく	14.4%
b. 簡単に	67.0%
c. 教わらない	16.6%
d. 無回答	1.9%

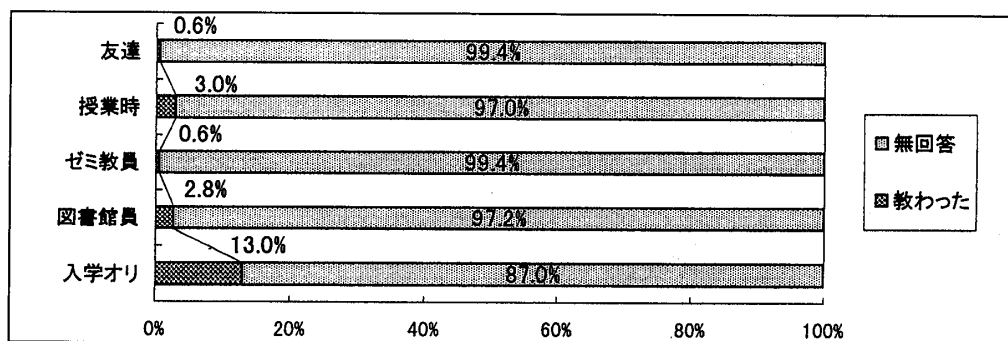
〈表10〉修得した場

	全 体
a. 小学校	14.4%
b. 中学校	8.9%
c. 高校	12.7%
d. 短大	16.1%

〈表11〉短大で誰から

科別人数比	入学オリ	図書館員	ゼミ教員	授 業 時	友 達
保 育 科	23	3	0	0	1
心理学科	12	2	0	0	1
教 養 科	12	5	2	11	0

〈図14〉修得率





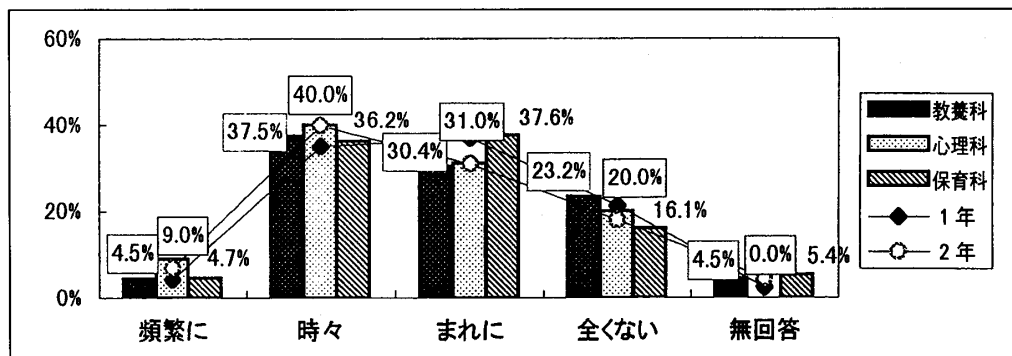
## 【授業と図書館】 ←→ 設問28. 29

「授業時に短大図書館の本が紹介されたり、そこで調べるような指示を受けたことがあるか」という設問に対し、「頻繁に」「時々ある」を合算して考えると約43%強の学生が、授業との関連を認知している。特に心理学科2年が67.4%と全体の数値を押し上げているのが注目される（〈図15〉参照）。

これは指定図書の活用でも、平均22.7%の活用率に対し、心理学科2年は83.7%と圧倒的な数値を示す。図16には鮮明には出てこないが、指定図書そのものを「わからない」とした学生が1・2年を通じて約45%であるのに対し、心理学科2年のみが4.1%であるのは、授業時の取り組みの有無がそのまま結果となって出たものであろう。

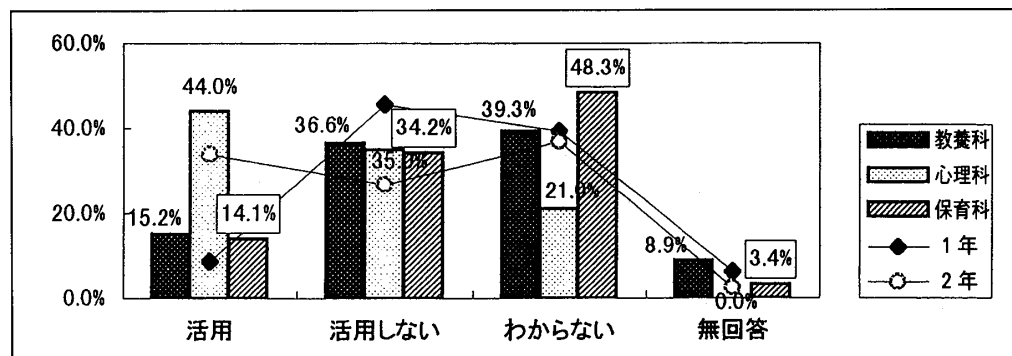
しかしこれも、図書館の利用率に反映するほどには至っていない。設問22・23の結果に示した通りである。

〈図15〉 授業時の図書紹介



(1年・2年の値は図示していない)

〈図16〉 指定図書の活用



## 【司書課程履修者】 ←→ 設問30

調査対象者の10%、教養科の36人（36.1%）が履修者。内1年が22人、2年が14人である。今回の調査では、しばしば一般の学生と司書課程履修者のデータとの比較を試みた。図書館に関する知識の習得が、図書館利用に反映するとすれば、今後の利用の活性化を図る上に参考になると考えたからであった。その結果いくつかの項目で、知識のみならず実際の行動面でも、他の非履修者との有意の差が見られることが確認された。今回は2年履修者について、しかも特定項目に限った比較しかできなかったが、全体に渡る結果を出す必要がある。

〈表12〉 司書課程履修者 (教養科)

	1 年	2 年
履修	22	14
非履修	25	47
無回答	1	3
計 (人)	48	64

## 【白梅短大図書館への要望】

アンケートの最後に要望を書く欄を設けた。書いた割合は多くはないが、多くの学生の本音が代弁されているものと思われる。本学図書館が抱える施設設備・運営上の問題点や、利用に伴う学生の希望や困難など、耳を傾けるべきことが多い。

以下、項目に分けて掲げて置く。

## ①蔵書に関する要望

- ・本の種類を増やしてほしい (複数)。
- ・幅広く本を入れてほしい (複数)。
- ・学生数に比べて保育資料が少ない。
- ・福祉の本・資料を増やしてほしい。
- ・保育関係に比べ福祉関係資料が少ない。
- ・障害児関係の研究論文を入れてほしい。
- ・心理学の新しい本を入れてほしい。
- ・英米文学関係の本が少ない。
- ・外国文学の本を増やしてほしい。
- ・社会系の本がもっとほしい。
- ・古い本がほしい。
- ・古文の現代語訳の本がほしい。
- ・源氏物語の文献を増やしてほしい。
- ・現代小説 (山田詠美・宮本輝など) を入れてほしい。
- ・文庫本をふやしてほしい (複数)。
- ・小説を増やしてほしい。
- ・文学の単行本をもっと増やしてほしい。
- ・雑誌を増やしてほしい。
- ・芸能人のエッセーも見たい。
- ・話題の本を置いてほしい。
- ・専門書をもっと増やしてほしい (複数)。
- ・大学の紀要などもっと入れてほしい。
- ・本を増やしてほしい。授業で紹介された本がないことが多い。
- ・本を増やしてほしい。レポートの時など回ってこない (複数)。
- ・同じ本を何冊か入れてほしい。
- ・CDも置いてほしい (複数)。
- ・もっと最新の映画を入れてほしい。
- ・ビデオの数を増やしてほしい。

## ②貸出・リファレンスに関する要望

- ・指定図書の貸出期間 (1週間) が短い。
- ・貸出期間をもっと長くしてほしい (複数)。
- ・返却が遅れてもあまり怒らないでほしい。
- ・リファレンスを親切にしてほしい (複数)。
- ・もう少し穏やかに対応してほしい。
- ・もっと資料探しに協力してほしい。

- ・卒業レポート用の貸し出しがうまくいかない（複数）。
- ・職員の対応はいいと思う。

### ③検索に関する要望

- ・探しにくい。
- ・カードが見にくい。
- ・パソコンが前より使いにくくなった。
- ・コンピュータが難しすぎる（複数）。
- ・検索用コンピュータを増やしてほしい。
- ・画面にふれて探す形のコンピュータの方が確実。
- ・パソコン検索のわかりやすい説明書を置いてほしい。
- ・書架の配置が分かりにくい（複数）。

### ④施設・設備に関する要望

- ・図書館が独立した建物だとよい。
- ・規模を大きく探しやすくしてほしい。
- ・もっと落ち着ける構造だとよい。
- ・地階に座席を増やすべきだ。
- ・学習する場をもっと作ってほしい。
- ・地階の空調をよくしてほしい（複数）。
- ・空き時間などに勉強するのによい環境である。

### ⑤開館時間などに関する要望

- ・9時（8時半複数）から開館してほしい。
- ・もう少し遅くまで開けてほしい（複数）。
- ・長期休暇中の開館日をもっと増やしてほしい。
- ・土曜日の閉館時間を遅らせてほしい。

### ⑥その他の要望

- ・私物もコピーできるようにしてほしい（複数）。
- ・古くて使えない本を換えてほしい。
- ・入りにくい雰囲気。
- ・防犯装置の誤作動を何とかしてほしい。
- ・ビデオを貸し出して利用を高めるべきだ（複数）。

## V. 終わりに

以上が今回の調査により明らかになった白梅学園短期大学の学生の利用実態である。

先の西村論文が指摘していたように、1991年に施行された大学審答申に基づく「短期大学設置基準」は、これまでの蔵書閲覧を主とする図書館のあり方を、大きく情報システム化の方向に換えるものであった。時代に対応すべく本学図書館も相当の成果をあげてきているのは事実である。が、図書館の情報システム化は、学生たちに必ずしも十分に受け止められていたとは残念ながら言いがたい。当短大内部の数値のみで、これを相対化する時間がないが、他はどうあれ、検索できない学生が20%もいるような現状は、それ自体問題であろう。司書

課程履修学生の図書館関連の活動が総じて活発であることからして（勿論これらの学生が、そもそも本好きの層である可能性は高いが）、ここに、より図書館を活性化していく一つの方向性が見えるのではなかろうか。図書館を意識化させることである。入学時のオリエンテーションは、学生たちの間にそれほど印象として残っていない。繰り返し活用方法習得の機会を設けるか、それ以上に、日常的に機械操作その他のレファレンスに個別に応じ、習得させる必要があるように思う。

図書館員の努力にも関わらず、学生たちにとってまだ図書館は使いにくいようである。学生も図書館について学ぶ中で、職員の仕事にも目を向け理解を深めていくであろうし、職員もまた学生をよき利用者に育てていかなければならないのであろう。授業すなわち教員と図書館活動の関わりは、惨憺たる結果を見せていた。意識的に啓発していくべき立場にありながら、現状はほとんどそのことが意識化されていないかに見える。

ありきたりの結論だが、要は図書館活動は1セクションの問題ではないということである。

また根本的な問題として何度か触れたが、図書館の拡充は急務のように思われる。設置基準の変更に伴う閲覧座席数と図書・学術雑誌の冊数・種類の規制の解除は、だからといって、図書館の＜本を読む＞機能を軽視する意味に取ってはならないだろう。まして短大の図書館であれば、多くの学生がそうしているように、そこが試験やレポートのための学習の場となつて当然である。学生数に比べるならば座席数（現在92席＋ $\alpha$ ）も十分とはいえず、狭いのは事実である。蔵書の保管からしても将来に渡る施設・設備面の対策は急がなければならないであろう。

最初に述べたように、基礎データを示す方法をとらなかったことから、多くの問題点を見逃してきている可能性が大きい。以上で蕪雑な報告を終えることにしたい。なお、短大図書館の橋本和子課長からは資料の提供・アンケート項目の作成など、多大の御協力を頂いた。記して感謝申し上げたい。

くぼき としこ（日本文学）